



1:1 キリスト・イエスの囚人であるパウロ、および兄弟テモテから、私たちの愛する同労者ピレモンへ。また、

1:2 姉妹アピヤ、私たちの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。

1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたの上にありますように。

1:4 私は、祈りのうちにあなたのことを覚え、いつも私の神に感謝しています。

1:5 それは、主イエスに対してあなたが抱いている信仰と、すべての聖徒に対するあなたの愛とについて聞いているからです。

1:6 私たちの間でキリストのためになされているすべての良い行ないをよく知ることによって、あなたの信仰の交わりが生きて働くものとなりますように。

1:7 私はあなたの愛から多くの喜びと慰めを受けました。それは、聖徒たちの心が、兄弟よ、あなたによってカづけられたからです。

1:8 私は、あなたのなすべきことを、キリストにあって少しもはばからず命じることができるのですが、こういうわけですから、

1:9 むしろ愛によって、あなたにお願いしたいと思います。年老いて、今はまたキリスト・イエスの囚人となっている私パウロが、

1:10 獄中で生んだわが子オネシモのことを、あなたにお願いしたいのです。

1:11 彼は、前にはあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても、役に立つ者となっています。

1:12 そのオネシモを、あなたのもとに送り返します。彼は私の心そのものです。

1:13 私は、彼を私のところにとどめておき、福音のために獄中にいる間、あなたに代わって私のために仕えてもらいたとも考えましたが、

1:14 あなたの同意なしには何一つすまいと思いました。それは、あなたがしてくれる親切は強制されてではなく、自発的でなければいけないからです。

福音が難問をどのように解決してゆくことができるのか。それがこの手紙では表わされています。パウロは、盗みを働いて今は回心したオネシモのためにとりなしています。すなわち、その主人であり被害者でもあるピレモンに、彼を受け入れるようにと願っているのです。どのような人でも救われるなら新しい人生が開けるのですが、それは現実的なものでなければなりません。私たちの教会でもその実際を見たいし、そのために愛の労苦をしたいものです。

パウロはまずピレモンの心が開かれるように、また主の視点から始められるように、感謝から始めています。ここに聖霊に頼る信仰があります。

また「あなたの同意なしには何一つすまいと思いました。」と、相手の主体性に任せています。これも聖霊が働いてくださる機会でもあります。正しいからと相手に有無を言わせないというのは、信仰による思考と決断をなくしてしまうのです。

これらを参考にしながら、主の御心になかった人の導き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

